

## 多様なニーズに対応する長周期地震動の予測情報に関する実証実験について

### 1. 実証実験のまとめ

気象庁と国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）では、「多様なニーズに対応する予測情報検討ワーキンググループ」（以下、WG）の下、平成 29 年 11 月から「長周期地震動の予測情報に関する実証実験」（以下、実証実験）を行っている。

実証実験は、「長周期地震動モニタ」を利用した実験と、機械処理可能な予測結果を利用した実験がある。

前者については、一般からのべ 3,000 人程度の参加があり、アンケートの結果などからも長周期地震動についての普及啓発に効果があったことが示された。後者については、これまでのWGでも、予測情報がエレベーターの制御やビル管理者の対応の早期化に利用できる程度の精度や迅速性を有していることが報告された。

また、緊急地震速報の予報事業者などからは、防災科研による予測結果を利用するだけでなく、自らが予測を行い、情報を提供する実験についても行いたいとの要望があった。今後さらに具体的な検証を行うために、これらの事業者からもより多くのビル等でそれぞれのニーズに対応するような情報を提供し、より多くの過去データや実際の揺れに対する情報の活用事例を蓄積する実験を行うことが重要である。そのため、実証実験を今後も引き続き拡大・継続させる必要がある。

### 2. 実証実験の報告について

機械処理可能な予測結果を利用した実験について、実験参加者は気象庁と防災科研との間に覚書を締結し、WGに実験の成果を報告することとし、順次実験を行っているところである。WGの報告書としては、第4回WGにおいて報告があった中間報告の内容で記載するが、今年3月まで実証実験は継続するため、中間報告以降の成果については、別途3月に事務局にご報告いただいたものを取りまとめてWG委員に共有し、気象庁HP上でも公開することとしたい。